

VALERIE MATSUMOTO

「八島光の生涯 — 信念を貫いた芸術家・活動家」

“The Principled Journey of Artist and Activist Mitsu Yashima”

Abstract:

本講演では八島光の人生と作品について論じる。八島は、1908年に因島で生まれ、笹子智江と名付けられた。東京で芸術を学んでいたころ、彼女はプロレタリア美術家同盟に参加し、仲間の芸術家であり、後に夫となる岩松淳と出会う。二人は1939年に日本を離れ、観光ビザを手に入れたアメリカに入国し、ニューヨークで生活を始めた。第二次世界大戦中、彼らは八島太郎・光という偽名を使いながら、日本で暮らす親族を守るためにアメリカ政府に協力した。その後、彼らはカリフォルニア州ロサンゼルスに移り住み、美術学校を開校したものの、光は家族の生活を支えるため、出来高払いの作品作りに多くの時間を費やすことになる。1970年までに、彼女は夫とのもとを離れ、サンフランシスコに引っ越すとジャパントウン芸術運動（Japantown Art Movement）に関わっていく。運動と芸術、仕事、そして日々の生活を結び付けていくという彼女の人生とその努力からは、彼女が女性芸術家として直面した困難の一端も同時に見えてくる。彼女の政治的な取り組みは日本で始まり、アメリカで続いたわけであるが、その取り組みには1960年代と1970年代に展開されたアジア系アメリカ人運動のトランスナショナルな影響が色濃く反映されていたのである。

Representative works are:

*City Girls: The Nisei Social World in Los Angeles, 1920-1950* (NY: Oxford University Press, 2014).

“Pioneers, Renegades, and Visionaries: Asian American Women Artists in California, 1890s-1960s,” *Asian American Art: A History, 1850-1970*, eds. Mark D. Johnson, Gordon Chang, and Paul Karlstrom (Stanford: Stanford University Press, 2008), pp. 169-99.

*Farming the Home Place: A Japanese American Community in California, 1919-1982* (Ithaca: Cornell University Press, 1993).